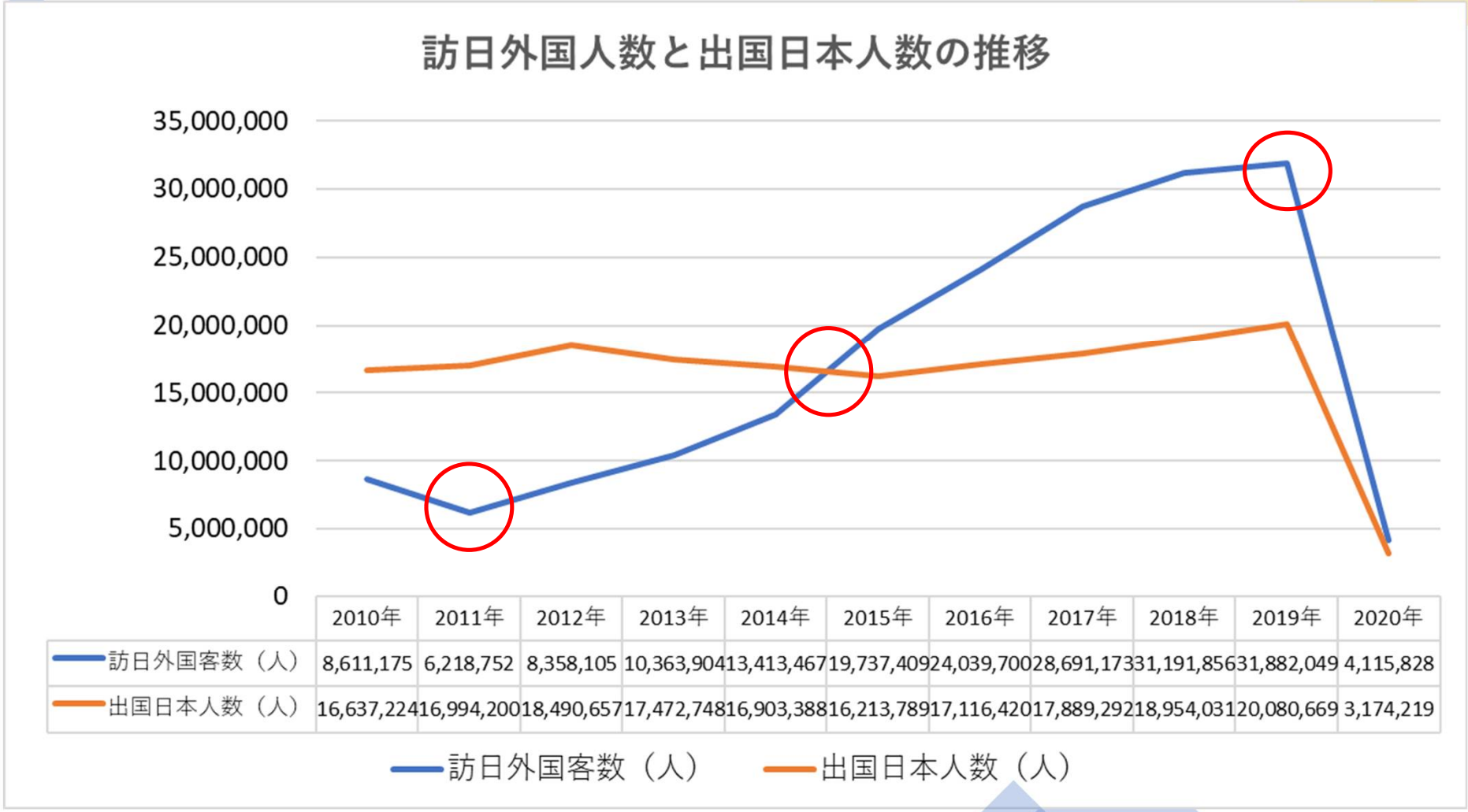
ポストマスツーリズムの地域観光政策

第13章　地方都市におけるインバウンド政策

法政大学大学院政策創造研究科修士課程修了

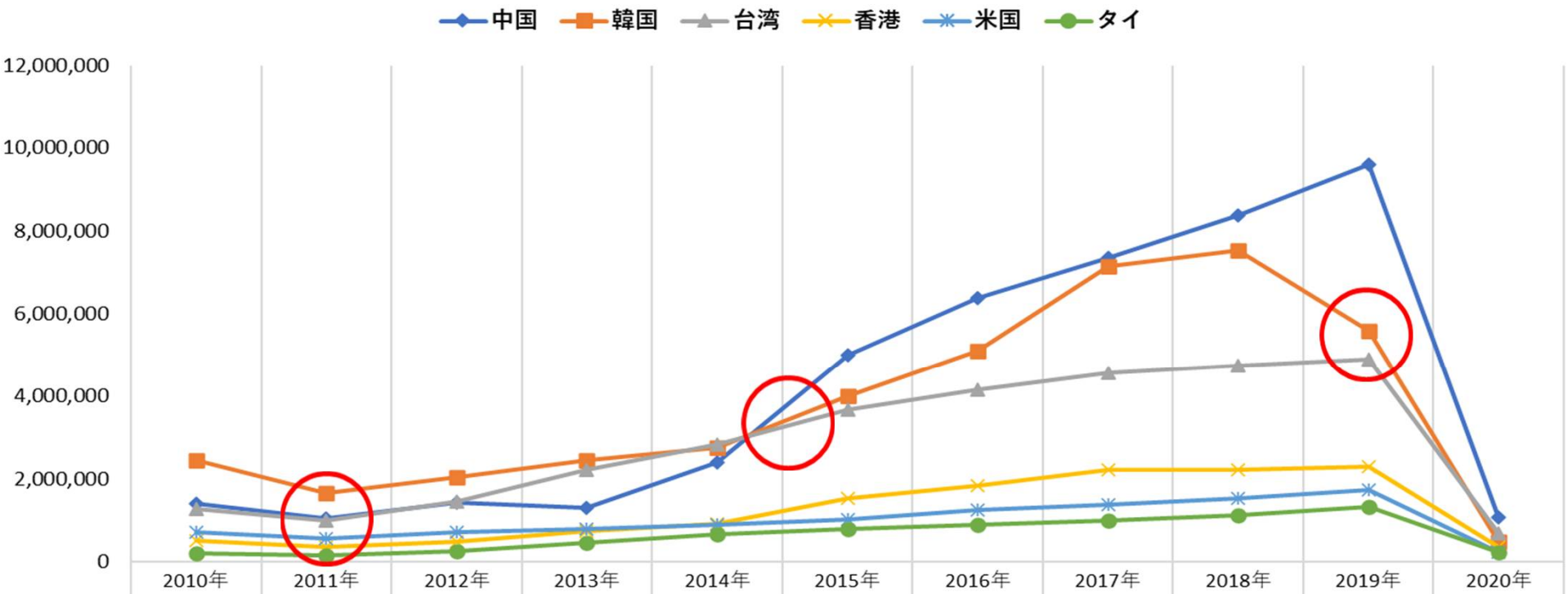
笠間市議会議員　　内桶克之

1. 日本におけるインバウンド政策



	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
訪日外国客数（人）	8,611,175	6,218,752	8,358,105	10,363,904	13,413,467	19,737,409	24,039,700	28,691,173	31,191,856	31,882,049	4,115,828
出国日本人数（人）	16,637,224	16,994,200	18,490,657	17,472,748	16,903,388	16,213,789	17,116,420	17,889,292	18,954,031	20,080,669	3,174,219

地域別訪日客数の推移



	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
中国	1,412,875	1,043,246	1,425,100	1,314,437	2,409,158	4,993,689	6,373,564	7,355,818	8,380,034	9,594,394	1,069,256
韓国	2,439,816	1,658,073	2,042,775	2,456,165	2,755,313	4,002,095	5,090,302	7,140,438	7,538,952	5,584,597	487,939
台湾	1,268,278	993,974	1,465,753	2,210,821	2,829,821	3,677,075	4,167,512	4,564,053	4,757,258	4,890,602	694,476
香港	508,691	364,865	481,665	745,881	925,975	1,524,292	1,839,193	2,231,568	2,207,804	2,290,792	346,020
米国	727,234	565,887	716,709	799,280	891,668	1,033,258	1,242,719	1,374,964	1,526,407	1,723,861	219,307
タイ	214,881	144,969	260,640	453,642	657,570	796,731	901,525	987,211	1,132,160	1,318,977	219,830

2. 地方の歴史的景観を活用したインバウンド政策
～大分県杵築市～

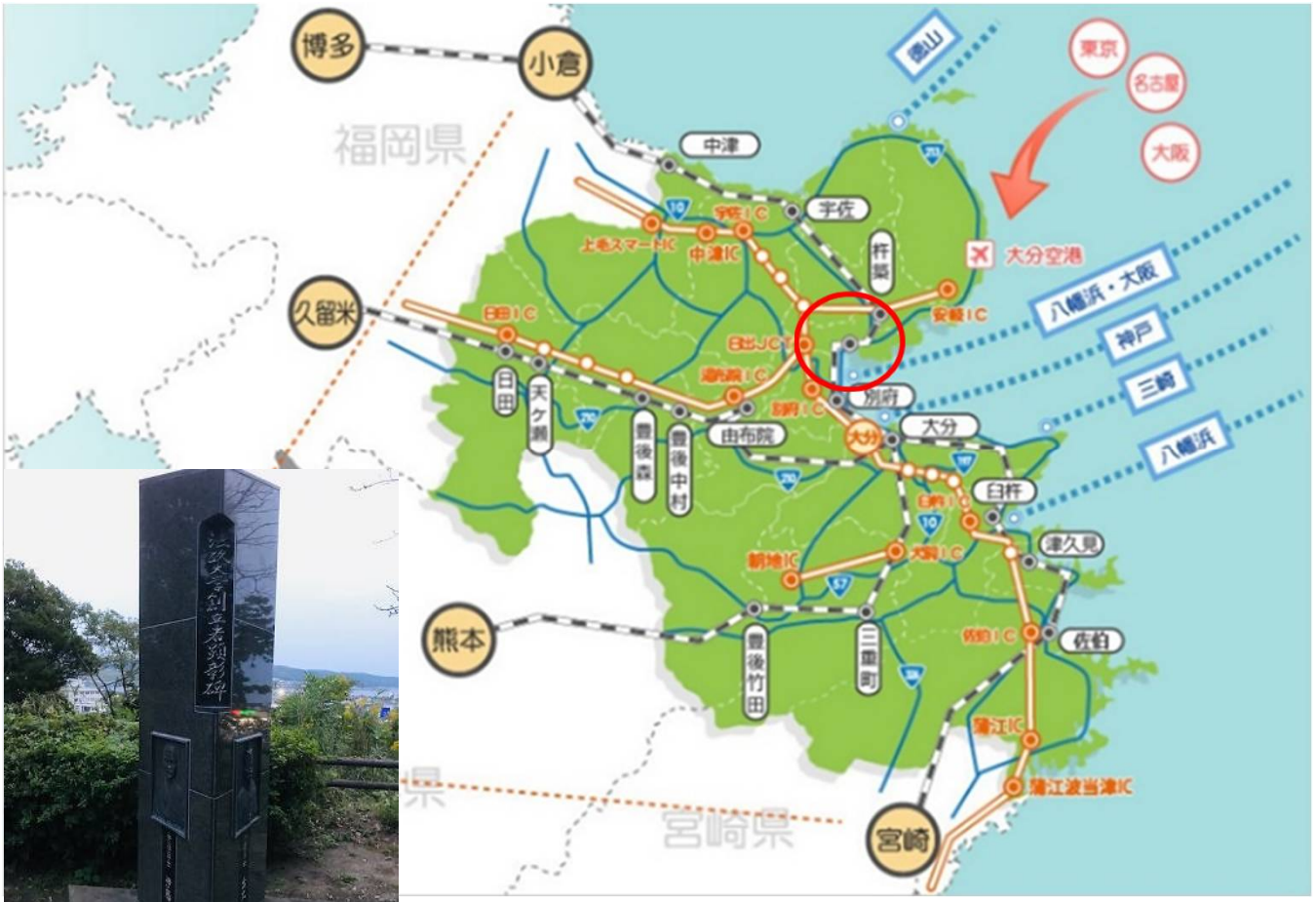
総面積280.08㎢

人口28,873人（令和2年1月1日現在）

観光入込客数917,785人

（2018年）

農業と漁業を中心とした歴史・文化都市



杵築市の特徴的な資源

北台南台伝統的建造物群保存地区

谷が分かつ南北の台地に築かれた坂が特徴的な武家町

世界農業遺産

多くのため池を周辺をクヌギ林とつないで、限られた水を有効に活用する農林水産循環システム

杵築市観光（観光協会）の変遷

時　期	内　容
平成20年（2008年）	「観光おもてなし宣言」をする。5つのおもてなし事項の普及。市民によるおもてなしの実践活動が始まる。
平成21年(2009年)　4月	和服応援宣言
11月	きものが似合う歴史的町並み
平成23年（2011年）　4月	市役所観光担当が担っていた観光協会を分離独立
	事務局長にサンリオピューロランドを退職した三浦孝典氏を採用
5月	台湾、香港への視察・PR
7月～8月	日本な歴史的な建造物や文化体験による外国人の呼び込み・・約1千人が来訪
平成25年（2013年）　5月	「国東半島宇佐地域」が、世界農業遺産に認定される。
平成26年（2014年）　4月	観光協会を法人化
	協会としてのイベントづくりはしない（市民や団体がイベントを担う）
平成29年（2017年）10月	杵築市観光協会が「きものが似合う町並み」市民がもてなす城下町で九州ローカルハッピーアワード　団体グランプリを受賞
11月	「北台南台伝統的建造物群保存地区」が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定される。
	年間外国人入込客98,001人（過去最高）

３．世界遺産を活用した外国人目線によるインバウンド政策
～和歌山県田辺市～

人口73,072千人（令和２年１月１日現在）

面積1026.91㎢（和歌山県の約22％）、近畿地方で最大、全国20位。森林面積88.4％

観光入込客数　3,661,961人（2018年）

熊野古道

熊野本宮大社

南高梅

姉妹都市　スペイン サンティアゴ（聖地巡礼）

友好都市　笠間市　（合気道）

ツーリズムビューローの設立と観光の取り組み

熊野地域の着地型旅行会社

「田辺市熊野ツーリズムビューロー」を設立

「ブーム」より「ルーツ」、「マス」より「個人」、「インパクト」を求めず「ローインパクト」、世界に開かれた「上質な観光地」

2017年8月にオープンした外国旅行者の拠点施設「KUMANO TRAVEL」

外国人プロモーション事業部長

外国人の感性　熊野に精通　トレールの経験

聖地巡礼　歩く人を呼び込む観光プロモーション

ツーリズムビューローの設立と観光の取り組み

時　期	内　容
平成10年（1998年）10月	和歌山県「熊野古道」とスペイン・ガリシア州「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」が姉妹道を提携する。
平成16年（2004年）　7月	「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界文化遺産に登録される。
平成17年（2005年）　5月	田辺市、龍神村、中辺路町、大塔村、本宮町が合併し、新「田辺市」が誕生
平成18年（2006年）　4月	熊野古道を有することから田辺市だけでなく広域でのプロモーションの必要性から官民共同で「田辺市熊野ツーリズムビューロー」を設立。（スタッフ4人）
	世界に通用する観光地としてプロモーションするには、外国人目線が重要であることから、プロモーション事業部長にカナダ出身の外国語指導助手（ALT)だったブラッド・トウル氏を据え、外国人目線のプロモーションを実施する。
平成22年（2010年）　7月	法人格（一般社団法人）を取得し、旅行業「熊野トラベル」をスタート
10月	旅程提案、インターネットによる旅行予約システムの開始、荷物配送サービスなどの着地型旅行商品の販売などを開始する。
平成26年（2014年）　5月	田辺市とスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ市が観光交流協定を締結
平成27年（2015年）　2月	「熊野古道」と「サンティアゴへの道」の共通巡礼手帳を発行して、共同プロモーションを実施する。
12月	「みなべ・田辺の梅システム」が世界農業遺産に認定
平成28年（2016年）10月	世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に神社や潮見峠などが追加登録される。
平成29年（2017年）　8月	トラベルサポートセンター「KUMANO TRAVEL」がオープン
平成30年（2018年）	スタッフ24人。年間外国人宿泊客43,939人で過去最高を記録する。
平成31年（2019年）　3月	日本版DMOに登録
令和元年　10月	第5回ジャパン・ツーリズム・アワード「観光長官賞」「DMO推進特別賞」を受賞

4. 地域資源まるごと活用、攻めのインバウンド政策　～茨城県笠間市～

人口は73,664人（2020年10月1日現在）

総面積は240.40㎢

観光入込客数3,704,400人（2018年）

赤穂市と姉妹都市　　忠臣蔵

田辺市と友好都市　　合気道

ドイツラール市と友好都市　菊まつり

絶景スポット「石切山脈」

笠間市の観光資源と観光等の政策

笠間稲荷神社　日本最古の菊まつり

笠間焼　陶炎祭（ひまつり） オープンアトリエ
日本遺産「かさましこ」

笠間の栗　新栗まつり　もんぶらり旅
JR東日本と連携

稲田みかげ石　絶景「石切山脈」

合気道の聖地　海外からの合宿（2年～3年）

道の駅かさま（今年9月オープン）

台湾交流事務所の設置

2018年7月に国際化戦略事業として、小規模地方自治体としては全国で初めて台湾交流事務所を設置。市内にはインバウンド協議会

国・地域名	来訪者数（人）	割合（%）	国・地域名	来訪者数（人）	割合（%）
台湾	1,031	26.2	フィリピン	59	1.5
中国	706	17.9	タイ	56	1.4
アメリカ	236	6.0	イギリス	54	1.4
香港	159	4.0	その他アジア	468	11.9
韓国	81	2.1	その他ヨーロッパ	93	2.4
フランス	69	1.8	その他	925	23.5
※2018年度（平成30年度）実績3,039人（台湾763人）			合計	3,937	100

2019年外国人旅行者の推移

５．地方都市におけるインバウンド政策と今後の方向性

インバウンド政策における共通事項

１．地理的条件（交通事情）

空港・・・国際空港から2時間以内、大分、南紀白浜、茨城の地方空港がある

鉄道・・・博多⇔博多、大阪⇔紀伊田辺、東京⇔友部　90～120分

道路・・・大都市から高速道路・市内にインターチェンジ　90～120分

２．歴史・文化を背景にした観光資源の活用

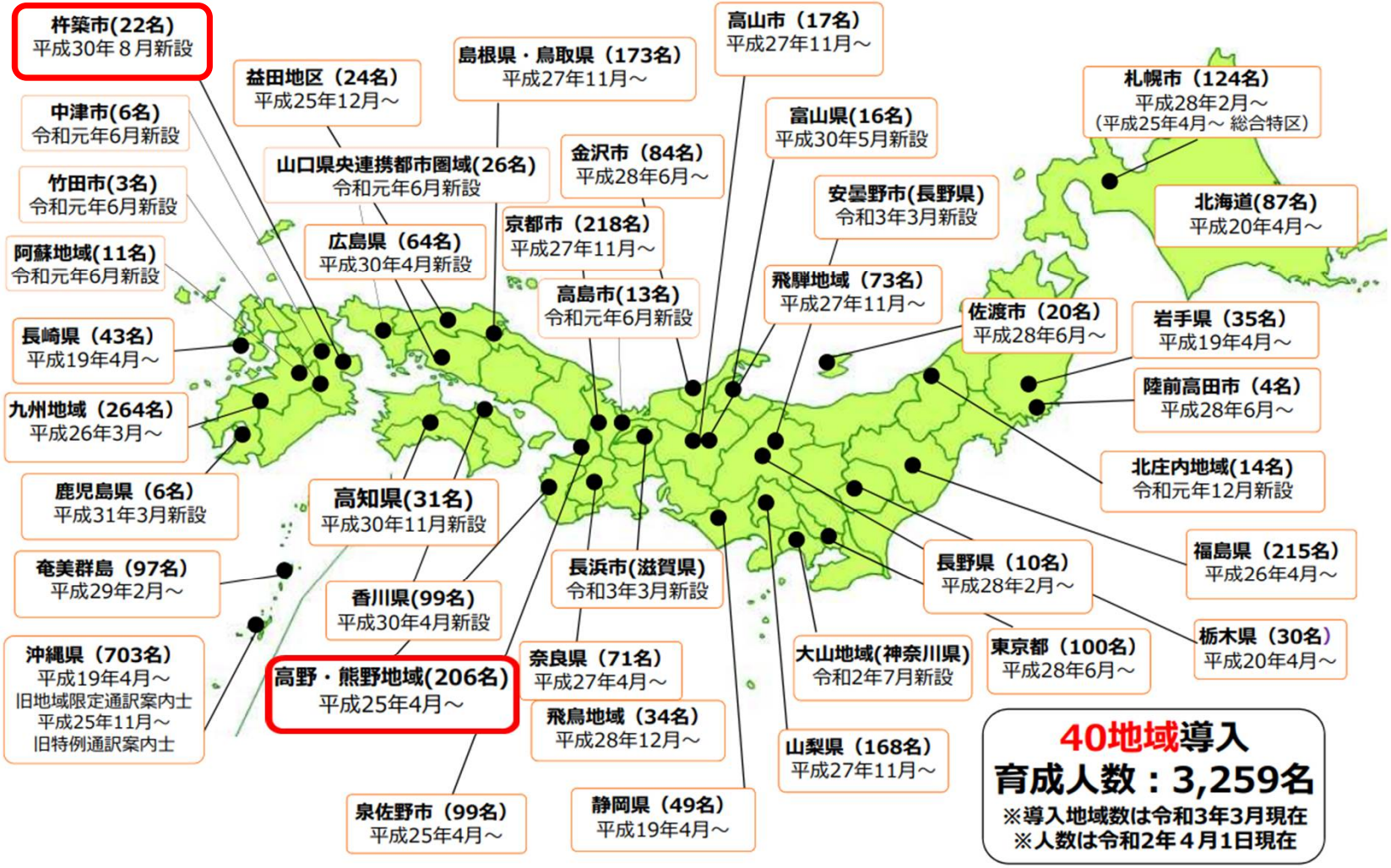
「北台南台伝統的建造物群保存地区」「世界遺産　熊野古道」

「笠間稲荷神社　門前通り　笠間焼陶芸」

３．観光に関わる人材の育成

「地域通訳案内士制度」「セミナー・現地研修」「案内人制度」

地域通訳案内士制度


杵築市(22名)
平成30年８月新設
中津市(6名)
令和元年6月新設
竹田市(3名)
令和元年6月新設
阿蘇地域(11名)
令和元年6月新設
長崎県（43名）
平成19年4月～
九州地域（264名）
平成26年3月～
鹿児島県（6名）
平成31年3月新設
奄美群島（97名）
平成29年2月～
沖縄県（703名）
平成19年4月～
旧地域限定通訳案内士
平成25年11月～
旧特例通訳案内士
益田地区（24名）
平成25年12月～
山口県央連携都市圏域(26名)
令和元年6月新設
広島県（64名）
平成30年4月新設
高知県(31名)
平成30年11月新設
香川県(99名)
平成30年4月新設
高野・熊野地域(206名)
平成25年4月～
泉佐野市（99名）
平成25年4月～
島根県・鳥取県（173名）
平成27年11月～
京都市（218名）
平成27年11月～
高島市(13名)
令和元年6月新設
長浜市(滋賀県)
令和3年3月新設
奈良県（71名）
平成27年4月～
飛鳥地域（34名）
平成28年12月～
静岡県（49名）
平成19年4月～
金沢市（84名）
平成28年6月～
高山市（17名）
平成27年11月～
富山県(16名)
平成30年5月新設
安曇野市(長野県)
令和3年3月新設
飛騨地域（73名）
平成27年11月～
佐渡市（20名）
平成28年6月～
長野県（10名）
平成28年2月～
大山地域(神奈川県)
令和2年7月新設
山梨県（168名）
平成27年11月～
東京都（100名）
平成28年6月～
札幌市（124名）
平成28年2月～
（平成25年4月～ 総合特区）
北海道(87名)
平成20年4月～
岩手県（35名）
平成19年4月～
陸前高田市（4名）
平成28年6月～
北庄内地域(14名)
令和元年12月新設
福島県（215名）
平成26年4月～
栃木県（30名）
平成20年4月～
40地域導入
育成人数：3,259名
※導入地域数は令和3年3月現在
※人数は令和2年４月1日現在

今後の方向性

1. 情報発信と観光客ターゲット

インバウンド政策＋大都市圏からの誘客

2. 広域連携や公民連携などの連携手法

地域連携での観光誘客

民間事業者との連携